

令和4年度 第6回有田工業高等学校 学校運営協議会（学校魅力強化委員会）会議録

「佐賀県立学校における学校運営協議会の運営に関する要綱」第8条第2項に基づき、次のとおり、第6回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）の会議録等を公表します。

【期 日】 令和5年3月15日（水） 15：00～17：00

【場 所】 佐賀県立有田工業高等学校 会議室

【出席者】 学校運営協議会委員 6名（欠席者8名）

※ 佐賀県教育委員会規則第13号第7条第2項により、委員の過半数の出席が条件であるため、今回は会議としては成立しないが開催することとした。

本校事務局教職員 9名（欠席者4名）

参加者 教育振興課2名、学校魅力化アドバイザー

【会議の内容】 以下のとおり。（全体の司会は、主幹教諭）

1 開 会 （司会・主幹教諭より）

2 会長挨拶

今年度学校運営協議会が発足し、いろいろなことを議論してきた。いろいろなことをいきなり変えるというのは難しいと思うが、徐々に変化していくものであると思う。この協議会に関してもいろいろなものをベースにしながら良い方向に変化していけばいいと思っている。本日もよろしくお願ひしたい。

3 学校長挨拶

あと2週間で年度が替わるという大変お忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。本校はSAGA コラボレーション・スクール重点校ということで、学校運営協議会を設置し、今回の会議は、今年度最後の第6回を迎えることになる。年度当初は手探り状態でスタートしたが、委員の皆様より貴重な御意見をいただき、ここまで進んでこられたことにお礼申し上げます。今日の議題にも挙がっているが、委員の皆様から御意見をいただきながらこの協議会は着実に前に進んでいると思っている。学校では昨日、一般選抜の合格発表があり、本日は合格者確認日であった。全日制については合格者が確定しているが、定時制については再募集を行うところである。また「地域みらい留学」についても委員の皆様からもいろいろとアドバイスをいただき、特別選抜で5名、一般選抜で1名、計6名の生徒が入学してくれることを大変うれしく思っている。本日は、今年度のまとめということで、限られた時間ではあるがよろしくお願ひしたい。

4 協議・報告事項 （進行：会長）

（1）学校魅力化コーディネーターの紹介（主幹教諭より）

- ・本校はSAGA コラボレーション・スクール重点校ということで、学校魅力化コーディネーターの配置校であった。そのため今年度当初から、（一財）地域・教育魅力化プラットフォーム主催で、コーディネーター受け入れ校担当者研修会に参加して、受け入れの準備をしてきた。

また、コーディネーター募集合同説明会（オンライン）に参加して、本校の教育活動の紹介や求める人材像や職務内容等について説明を行ってきたが、給与条件等もあり、応募者がいない状態が続いた。そのため、9月からは伊万里のハローワーク求人を出して募集を続けてきた。その間の業務負担はかなり大変であったが、ようやく応募者が出て、今月3月より配属され、勤務いただいている。今年度は1か月間（月16日）ではあるが、次年度も継続して来ていただけるので、紹介をしたい。

※ 学校魅力化コーディネーターより、自己紹介にて紹介。

（2）SAGA コラボレーション・スクール事業1年目の報告 P.1-5 （主幹教諭）

- ・各学科の特色を生かした教育活動および地域貢献活動については、資料 P.1-2（1）のとおりである。このような取組について、佐賀県のホームページ（SAGA コラボレーション・スクールの取組）用の報告は、2月末で No.67 までである。佐賀新聞記事掲載も 50 回をこえ、学校の魅力発信の強化を図った。
- ・「地域みらい留学」制度による全国募集（セラミック科・デザイン科）については、資料 P.2（2）のとおりである。6月から毎月1回、土日に行われるオンラインによる合同説明会・学校説明会に計4回参加した。また、学校独自、オープンスクールを開催した。本年度は初めて、東京での対面合同説明会にも参加することができた。4月からの入学生は5名程度の予定である。
- ・学校運営協議会の設置と実施状況については、P.2-3（3）のとおりである。年間6回の会議内容は資料のとおりである。第3回の会議以降は「地域みらい留学」に関する継続的な協議を行っている。また、（4）では、学校運営協議会の意見を反映した教育活動の工夫・改善について紹介している。各校務分掌や各学科において、これまでのやり方を見直すきっかけとなり、委員の皆様や地域やの意見を反映した教育活動を行うことができた。
- ・学校の魅力発信と広報活動の充実については、P.4（5）のとおりである。「ARIKO コミュニティ・スクール通信」を5月から毎月発行し、地域の回覧板でも配布した。また、横断幕の設置、学校ホームページ内に「SAGA コラボレーション・スクール」バナーの新設、県ホームページへの毎月の活動報告の掲載、「佐賀新聞」掲載、「広報誌ありた」、有田ケーブルテレビなど、広報活動の強化を図った。
- ・重点校に配置される「学校魅力化コーディネーター」の募集活動については、資料 P.4（6）のとおりである。先ほど紹介したように、5月から募集活動を行い、今月3月から勤務していただいている。
- ・本年度の成果と課題については、P.4の3のとおりである。志願者増につながったことや「地域みらい留学」制度を利用した入学生5名程度も達成した。課題については、校内の組織体制を見直すことである。
- ・資料 P.5 については、高校生活と地域に関するアンケートにおける7月と12月の比較について考察を行ったものである。「地域から大切にされている雰囲気を感じる」「将来、自分が住んでいる地域で働きたいと思う」などの項目が10%以上アップしている。また、「この学校を中学生にすすめることができる」と肯定的な回答をして生徒の割合が83%であった。

（3）令和5年度 学校運営協議会活動計画書および委員推薦（案） P.6-7（主幹教諭）

- ・令和5年度学校運営協議会活動計画書（案）については P.6-7 のとおりである。令和5年度から

「地域みらい留学」制度を利用して入学してくる生徒達がいるので、毎回、継続的な熟議の場を設けたいと考えている。

- ・令和5年度学校運営協議会委員推薦（案）について、口頭で紹介する。現在、令和4年度の委員の皆様については、2期目が可能かどうかの確認を行った。御辞退される方の後任についても、ほぼ内諾を得ている状態である。

（4）その他（地域みらい留学担当より）

・デザイン科の生徒に、料飲店ステッカーの図案を作成するという課題を出したが、その作品を本日掲示している。今後の進め方について、教育振興課と相談しているところである。

5 グループ熟議 「地域みらい留学」について [学校魅力強化委員会]

ファシリテーター：学校魅力化アドバイザー 門脇様

◎熟議テーマ：「令和5年度入学の地域みらい留学生に対してさらに支援するとすればどのようなことができるか？」

○話題提供および共通インプット（10分）

- ・校内支援体制について（主幹教諭より）
- ・下宿先オーナーとの調整による入居予定等の現状報告、および生活面でのサポート等における進捗状況について（教育振興課より）
- ・住環境に関する家賃補助等について（有田町まちづくり課より）

○グループ熟議（30分）

- ・委員及び事務局教職員が3班に分かれて、KJ法にて、付箋にアイデアを書き出した後、グループ内で共有を図り、各班で意見やアイデアをまとめた。

○共有（10分）※各班の代表者が発表して報告。

【A班】

たくさん意見が出た。留学生に対してどのようなサポートができるかについてであるが、今回、地域みらい留学生が6人ということで、割と大きな集団で来てくれている。まずは、有田を知ってもらおうとか、有田の人たちとコミュニケーションを取ってもらおうということで、5月の有田陶器市アルバイトに、積極的に参加してもらおうことで、有田の人たちから個別にいろんな情報を知ることができる。有田ってこういう所だということがわかりやすいと思うので、有田陶器市のアルバイトに参加してもらおうのはどうか？

もう一つは、有田観光協会からアイデアが出たが、「町民のためのガイドツアー」というものがある。これを留学生向けにアレンジした形で、有田を回っていただいて、地元のガイドさんに案内していただくことで、有田の色々なところをどんどん好きになってもらう。そもそも、有田に興味のある生徒達が今回非常に多いということもお聞きしたので、そういう意味では留学生も積極的に町民の方たちとコミットできる機会になると思う。留学生全員で回ることで、留学生同士も仲間意識を持てる。県外各地から来てくれた留学生同士の仲間作りみたいなものを含めて、有田を知ってもらおうことで、有田の人たちとコミュニケーションをしてもらうためのサポートということで意見が出た。

【B班】

保護者目線、学校の担任目線で、住まいや環境面から、悩み相談とかメンタル的なところも含めて、日常の生活で困ることはないかということで話し合った。

もう一つは、地域イベントにも出かけてほしいというところで、A班からも出たが、有田陶器市アルバイトに参加することで、生活費の一部になればと思う。地域イベントへの参加について、委員の〇〇さんが住んでいる地区では、年間を通していろいろな行事があり、夏まつりとか、鬼火たきなど、伝統的なお祭りや地域のイベントに参加をしてもらうことで、自治体の方々と話をする機会になる。この地区に「地域みらい留学生」がいるということ、地域の方にも知ってもらう機会になり、困った時の相談をしてもらえることにつながると思う。

それから、地域みらい留学生同士のライングループなどがあれば、情報が知り合える。それぞれの考え方があると思うが、プラスに考えると必要ではないかと思う。やはり、病気になったらどうするのか？具体的に誰が付いていくのか？そのような心配事がつきない。そういうなかで SNS とか、地域のつながりが大事になってくるのではないだろうか。

【C班】

いろいろ意見が出た。自炊のこととか、やはり怪我や病気の心配の話とかが出てきた。話のメインは保護者立場になったら三者面談の時はどうするのか？20分の面談のために各学期末に出てきてもらっているのに、面談が終わったらそれで終わりというのにも無理があるのではないか。また、保護者イベントみたいなものを実施してみてもどうだろうかという話が出た。保護者の方にもツアーを組んで、一緒に宿泊をしていただき、有田のいろいろなところを回ってもらい、地域の方とも交流してもらう機会があれば、子供がこういう人たちと一緒に生活していたということがわかり、安心につながるのではないか。そして、地域の産業を見て、有田はこういう町で成り立っているのだということもわかってもらえるので、親子学習のような場を作ってみるのはどうだろうかという話が出た。三者面談の20分だけではなく、せっきくの面談時期なので、夏休みや帰省前のお盆、お正月がチャンスなので、このあたりをうまく利用することで、授業参観や学校の中とか地域のいろいろな所を散策できるように、長く滞在してもらう時間も作ることができるので、このようなイベントができればいいのではないかという話がでた。

このほか、次年度以降の住まいの確保についてである。次年度以降も定期的に5名程度来ていただけたら、15～20名分の住まいの確保が必要である。住まいの確保が難しく、これから探っていかなければならない。一番よいのは新築でしょうが、それが難しいのであれば、何か既存の施設で代替できる場所とか、何処かが使っているものを流用させてもらうような形で利用できないのかといった話がでた。空き家の活用の話もいろいろ探ってはいただいているが、子供たちと寮母さんのスタイルを取り入れるは難しいのではないかということが話題になった。

6 その他

○資料について（主幹教諭より）

- ・ARIKO コミュニティ・スクール通信第10号の発行
- ・国スポPR用カウントダウンボード製作の紹介

7 諸連絡 次回開催は、次年度。

【委員の紹介】 (敬称略：五十音順)

- 岩井 章 (有田観光協会 専務理事)
- 岩楯愛久美 (本校デザイン科卒業生)
- 小嶋 貴之 (有田町立有田中学校 校長)
- 佐々木元康 (特定非営利活動法人 灯す屋 代表理事)
- 竹田 英司 (長崎県立大学 地域創造学部実践経済学科 准教授)
- 土井 輝 (有田町まちづくり課 副課長)
- 徳永 隆信 (徳永陶磁器株式会社 (幸楽窯) 代表取締役、有田ロータリークラブ会員)
- 中野 星次 (佐賀新聞社メディア局次長兼コンテンツ部長)
- 中村 隆敏 (佐賀大学 芸術地域デザイン学部 教授)
- 西山美穂子 (キッキングランマ 代表)
- 原田 好和 ((有) アトラス 代表取締役、同窓会副会長)
- 深川 祐次 (株式会社香蘭社 代表取締役社長、有田町商工会議所 会頭)
- 安元 孝史 (全日制 PTA 会長)
- 山崎 哲也 (佐賀県立有田工業高等学校 校長)

【事務局】

- 馬場 光弘 (全日制 教頭)
- 吉田 芳克 (定時制 教頭)
- 橋本 剛 (事務長)
- 中西 美香 (主幹教諭、SCS 担当 主任)
- 原 慎一 (教務主任 (全日制))
- 野田 和弘 (教務主任 (定時制))
- 池上千代香 (進路指導主事 (全日制))
- 澤山 大亮 (セラミック科主任 (全日制))
- 森永 昌樹 (デザイン科主任 (全日制))
- 吉武 吉隆 (機械科主任 (全日制))
- 山田 成仙 (電気科主任 (全日制))
- 吉永 伸裕 (地域みらい留学担当)
- 馬場 美帆 (事務担当)
- 岩谷 綾子 (学校魅力化コーディネーター) ※令和5年3月～

※ 学校運営協議会については、全日制・定時制合同での設置とする。

※ SAGA コラボレーション・スクール (SCS) 重点校指定は、全日制が対象となっている。